

# 平成 28 年度 《学校経営計画》

名張市立つつじが丘小学校

学校長 雪岡 正 明

## 1 学校教育目標

豊かに・いきいき・つつじっ子

## 2 めざす学校像、幼児・児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	みんなが安心して登校、満足して下校できる学校（「あい」ある学校）	
○幼児・児童・生徒像	夢と希望をもって生き生きと活動する児童 ともに学びあい高めあえる子（まなび合い） 自分のことが好きと言える子（自分愛） 目標を持って前向きに取り組み助け合う子（助け合い）	
○教職員像	「チーム つつじ」を意識する教職員（支え合い）	
○保護者・地域像	小・中学校を核にしてつながり合う保護者・地域（つながり合い）	

## 3 学校の現状

創立 36 年を迎え、保護者のなかに本校卒業生も多くなっている。春日丘地区に加え国津地域も本校の校区である。児童数の大きな減少はなく、本年度は 1, 2, 6 年生で少人数学級編制を行い 21 クラス、特別支援学級 4 クラス合計 25 クラス編制である。市内で一番の規模となっている。

保護者・地域は大変学校に協力的である。児童の学校生活は比較的落ち着きがあり、全校集会等でも静かに話が聞ける。児童にとって学校生活で長い時間を占める毎時間の授業において、学習内容の理解だけでなく、安心して力を発揮し、仲間のがんばりを認め、高めあう事を意識するなど「人間関係」づくりを行ってきた成果でもある。

一方、家庭状況のしんどさが基本的な生活習慣や家庭学習の定着に影響し、学校生活や学力向上につながっていないケースも多々みられる。また、児童の中には、自らの課題を意識し、前向きに取り組む姿勢が大変弱いという一面もある。

教職員は多用な中、本年も「組織としての取り組み」を意識し、協調精神を持って、積極的なコミュニケーションを図り、常に児童に対して「チャンス チャレンジ やればできる」との励ましを続けたいと考えている。

## 本年度の改善方策

- 南中学校との教師間交流の時間確保を行い、一貫化を推進するとともに、コミュニティスクールの推進を図る。
- 授業において、毎時間のめあてを明確にし、見通しを持った授業を目指し、振り返りにより学習の一層の定着を図る。
- 「さわやかタイム」の活用や「家庭学習の手引き」による家庭学習の充実など学力向上に向けた取り組みを行う。
- 「今日のキラリ」の取り組みを通し、認め合い支えあう集団づくりに取り組む。児童の日常会話の中に「どうぞ」「ありがとう」を浸透させる。
- 豊かで安全な学校生活を送るために、遊びと授業のメリハリをつけ、時間を守って行動すること、「外遊びチャレンジ」などの体力づくりに取り組む。
- 基本的な生活習慣づくりのための「生活リズムチェック」を行い保護者への発信し、協力を求める。
- 学校・学級日より、ホームページ等を通して学校や児童の様子や、取り組みを保護者・地域に積極的に発信する。
- 地域や学校での明るい挨拶ができる習慣をつける。
- 定時退校の日を設け、時間外労働時間の縮減に努めるとともに、教職員間の健康管理を行い、教職員が生き生きと働ける職場となるように努める。

## 4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		26	27	28	29	30
1	定着した基礎・基本をもとに、自ら学ぶ能力の育成	○	○	○	○	○
2	人権尊重の精神並びに豊かな人間関係の構築	○	○	○	○	○
3	たくましい体と基本的生活習慣・態度の育成	○	○	○	○	○
4	保護者・地域ボランティアの拡充とコミュニティスクール推進			○	○	○
5	南中学校との小・中一貫の強化に努める			○	○	○

<b>重点的な取組事項－1</b>	定着した基礎・基本をもとに、自ら学ぶ能力の育成
<b>A 今年度の成果目標</b>	
<p>授業の目的に沿った言語活動を取り入れ、子どもたちが自分の思いを聴き合い、伝え合えるようにする。そのための成果指標を「何事もやる気をもって進んで取り組んでいますか」とし、90%をめざす。</p>	
<b>B 目標実現に向けた取組</b>	
<b>具体的な方策</b>	
①	授業のはじめに、子どもたちに授業の見通しをもたせるため、「めあて」とその時間の流れを示す。
②	「話すこと・聴くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの言語活動を、適切に授業場面に位置づけ展開する。
③	家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の重要性を保護者に啓発し、保護者の協力を得て家庭学習の定着を図る。

<b>重点的な取組事項－2</b>		人権尊重の精神並びに豊かな人間関係の構築
<b>A 今年度の成果目標</b>		
<p>学習活動をはじめ、学校生活全体の中で、認め合い支え合う集団づくりに取り組む。その成果指標として『その日のできごと（学校・友達・遊び）など、家の人と話をしていますか。』のアンケート結果とし、全校児童85%以上をめざす。</p>		
<b>B 目標実現に向けた取組</b>		
<b>具体的な方策</b>		
①	すべての学級の帰りの会で「今日のきらり」などの活動を位置づけ、お互いのよさを見つけあい、みんなの中で認められる場の設定をおこなう。	
②	校内研修会で児童の状況交流を行い、共通理解を図りながら課題解決に向けて話し合う。また、定期的に校内委員会を開催し、各学年・学級の情報交換を共有し、職員の共通理解を深める。	
③	「自分がされていやなことは人にはしない、言わない」を学校生活の基本とし、「どうぞ」「ありがとう」の言葉を日常の学校生活の中に浸透させながら、優しい心の定着を図る。	

<b>重点的な取組事項－3</b>		たくましい体と基本的生活態度の育成
<b>A 今年度の成果目標</b>		
<p>時間を守って行動し、体力の向上と健康安全に気をつけて学校生活を送る。その成果指標として、「体育の勉強や運動をすることが好きですか」とし、児童アンケートの結果が90%を超えることをめざす。</p>		
<b>B 目標実現に向けた取組</b>		
<b>具体的な方策</b>		
①	楽しみながら自主的に体力づくりができる機会を設け、恒常的に体力を高めるための取り組みを行う。	
②	校内放送により時間を意識させるとともに、チャイムを守らせ、45分間の授業を確保する。	
③	手洗いやうがいを徹底させ、5点セット（命の笛、帽子、名札、ハンカチ、ティッシュ）の携帯と活用を呼びかける。	
④	生活リズムチェックを学期に一度実施し、自分の生活を振り返り、基本的生活習慣の定着を図る。	

<b>重点的な取組事項－４</b>	南中学校との小・中一貫教育の推進を図る
<b>A 今年度の成果目標</b>	
<p>「中学校から小学校への乗り入れ授業が楽しいと感じる生徒の割合」を９０％とすることを指標とする。  また、オーストラリアの小学校との交流で、楽しくコミュニケーションできたという児童の割合を８０％を指標とする。</p>	
<b>B 目標実現に向けた取組</b>	
<b>具体的な方策</b>	
①	年４回の定期交流を行い、それぞれの部会の交流をもとに取り組みの深化を図る。
②	年間を通しての小・中の授業交流（参観・指導）を行う。
③	「学習の手引き」により、小中共通の取り組みを行っていく。
④	オーストラリアの児童との交流を行い、言語活動の幅を広げていく。